

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 結果公表シート

香芝市立認定こども園鎌田幼稚園

## 1. 本園の教育目標

<p>『わくわく のびのび たくましく～』                  ～健全な心身の基礎づくりと調和的な発達を図る～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心身共に健康で明るく、だれとでもなかよく遊べる子どもを育てる。</li> <li>主体的に遊びに取り組む中で、よく考え工夫する子どもを育てる。</li> <li>豊かな感性をもち、感じたことを素直に伸び伸びと表現する子どもを育てる。</li> </ul>
---

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の心身の発達や生活背景を的確にとらえ、様々な経験や活動を通して心とからだの調和的な発達に努める。</li> <li>一人一人の自主的、創造的な発想や表現の芽を大切にし、良さを認めながら自己充実感をもたせる指導に努める。</li> <li>望ましい人間関係と自主性を促進させるとともに辛抱強く行動できる子どもの育成に努める。</li> <li>基本的な生活習慣と挨拶を身に付けさせるための、具体的な取り組みを実施する。</li> <li>園児の充実した生活を支えるための家庭教育のあり方について保護者との連携を密にする。</li> <li>研修により職員一人一人の資質向上に努め、年齢に応じた育てたい力を意識した教育・保育をすすめる。</li> </ul>
--

## 3. 評価項目・評価・取組と達成状況

評価項目	評価	取組と達成状況
(1) 子ども理解と 保育内容の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標『わくわく のびのび たくましく』を達成するために、年間計画及び期間案、週案を作成し、学年に応じた保育内容を実施した。目の前の子どもたちの実態を見極め、どのような力を付けたいかというねらいを明確にし、子どもがわくわく楽しんで保育に引き込まれるような保育内容の工夫を常に心掛けてきた。保育や行事の成果だけを求めてすすめるだけではなく、その過程で子どもたちに育つものを保育教諭たちがきちんと理解し、保護者にも周知するようにドキュメンテーションの作成を継続して行った。幼児の興味を探り、そこから日々の保育や行事に繋ぎ発展させる保育展開と保育の工夫が見られ、とても充実した一年であった。昨年度ICT環境が整ったので、リモート研修に参加することもできた。園内研修会では、それぞれの担任が公開保育を行ったが、自ら教材研究に取り組み互いの保育から評価し学びの場となった。また、1枚の写真から職員相互の保育観や幼児の姿の読み取りを語り合うフォトチャット研修に取り組み保育教諭間の意見交流ができた。ミドルリーダーから若手保育教諭に子ども理解や保育の魅力について知らせることで共感や学ぶことも多かった。長時間園に子どもがいるが、それぞれの立場の職員が子どもたちに関わり共に保育にあたる。</li> </ul>
(2) 特別支援教育の充実と連携	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間で園児の実態を把握し指導の方法について探りながら共通理解をし、巡回相談や地域支援事業実施、専門機関との連携を図った。保護者と共に、すまいるノートを作成し個別の指導計画に基づいて、スモールステップで子どもの可能性を引き出す保育に努めてきた。また、個々の園児に必要な視覚的援助や教材の活用などを行った。ケース会議では、一人の悩みを多くの職員で考え支えるような時間になるようにすすめていった。保育教諭が園児に愛情をもって関わりながら、適切な援助を繰り返すことで、周りの子どもたちも同じように温かく接し、ありのままを受け入れる集団作りに繋がっている。</li> </ul>
(3) 安全管理・安全指導	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1日を安全点検の日と定め、職員一人一人が施設設備の安全点検を行い事故防止に努めた。また、感染症予防のため、手洗い、3密を避けた保育の実施と、園児・職員の健康把握、保護者への啓発、日々のウイルス除去対策を行ってきた。</li> <li>食物アレルギー研修会を実施し、正しい知識と対応方法を学ぶことができた。すべての職員が参加し、共通理解に努めた。</li> <li>火災・地震の避難訓練は、時間帯や方法を実施させ、園児も職員もいろいろなことを想定しながら避難できるように取り組んだ。また、昨年課題であった防犯研修を園内職員で実施したのち、園児も共に参加した。警察の方に来ていただき、交通安全教室・生活安全教室・5歳児による自転車安全教室を行い、園児たちが自ら自分の身を守るための力を付けさせるための取り組みを行った。</li> </ul>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・本園の豊かな自然環境の中で園児たちが伸び伸びと体を動かして遊ぶことができるように、職員たちは保育内容の工夫、時間の確保、安全に遊ぶことができる環境づくりを行い、また、保護者ボランティア「はなはな隊」が今年度から活動を開始し、共に園庭整備を行っていただき大変ありがたかった。園児たちは生き生きと遊び、様々な経験や体験を積み重ね、3学期に実施したアンケート結果から園に来るのが楽しみな子どもが100%であったことをうれしく思う。
- ・基本的生活習慣と挨拶の定着を目標の一つとして掲げているが、今年度、挨拶の歌やパペット人形を使った素話、絵本など具体的に園児たちに挨拶の必要性や気持ちよさを伝える具体的な取り組みを毎月25日のニコニコ挨拶の日に継続してきた。個人差はまだあるものの、元気に挨拶する子どもが増えてきて手ごたえを感じている。基本的生活習慣（着替え、手洗い、排泄、食事、片付け等）については、将来の子どもたちの自立に向けての第一歩と考え、これからも家庭への啓発を進めていきたいと思う。
- ・新型コロナウイルスに配慮した行事・保育については、昨年度の経験を活かし無理なくすすめられたと思う。しかし、ウイルスがなくなったわけではないので、4月からも引き続き気を引き締めて対策していきたい。
- ・職員同士を繋ぐ手立てとして、連絡ノートやボードの活用、学年会議や担任保育教諭と長時間保育教諭との話し合いなど連携は、毎年の課題である。職員一人一人が、声を掛け合い、風通しの良い人間関係を築こうとする努力が必要であると思う。職員一人に仕事の負担が偏らないよう、できるものができることを探し、協力し合える関係ができた。職員同士助け合い、信頼関係ができ、笑顔あふれる園になることで、子どもや保護者が安心して園に来る事ができると思う。卒園児の保護者の方から、「先生たちは、本当に仲がいいですね」と言っていたことはうれしいことであった。人こそ最大の環境である。来年度も、チーム鎌田で、園児にとって安心して最適な環境づくり、子どもの確かな力を育むための指導力の向上に努めていきたい。

#### 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
基本的生活習慣と挨拶の定着	・令和4年度の締めくくり職員たちが、挨拶を進めるための具体的なアイデアをそれぞれが出し合った。それをもとに、令和5年度も挨拶の定着ができるように、具体的な取り組み方法を考えて進めていきたい。基本的生活習慣については、保育の中で一つ一つ丁寧にすすめていくことと家庭への啓発も一歩すすめたい。
教育の質と保育力の向上	・園内研修・園外研修で互いの保育を見て学び合う、フォトチャット研修を継続して行い、保育の捉え方について意見交換をする。また、園児の心の内面を探り、子どもにとって一番の理解者になることで信頼関係づくりに努める。
保護者や地域との連携	・保護者・地域の方・校種間の連携をすすめていきたい。また、未就園児保育の再開をし地域の未就園児の集いの場をつくりたい。また、保護者の方が気軽に話せる機会をつくっていきたい。

#### 6. 学校関係者評価委員会からの意見と今後の改善について

- ・機会は少なくなったが、訪問の度に子どもたちの生き生きとした姿に会えることの期待が膨らんでくる。職員間で目指すところをしっかりと話し合い、一人一人の考えを大切にしながら連携されているその大人の姿勢が、子どもたちの姿にかえっているのだと思う。地域の人々への働きかけを農園作業や園外への活動に活かしている。日々の生活の中で、子どもたちの言葉を引き出し保護者に伝えることで親子の会話を充実させ保護者の気持ちに常に寄り添い、みんなで子どもを育てていく大切さを伝えている。
- ・本園の教育目標「わくわく のびのび たくましく」は、園長からの話や園だよりや掲示板等、園からの発信を工夫したことで、保護者の皆様に親しんでいただいている。このことは、本園が目指している方向が分かりやすくなったのではないかと思う。目標達成のため、全職員が保育を具現化し、付箋に記入し職員室に貼っている。全職員で共通理解し保育資質向上を目指していることがよくわかる。
- ・本園に訪問する度に、子どもたちの活気ある声と笑顔が溢れている。2月に入り訪問の機会を得た。子どもたちは、いつもの笑顔と活気で満ちていた。わくわくしてキラキラした瞳で友達と話し合っている姿を見せてくれた。友達を思いながら行動している姿は、たくましく、自己有用感・自己肯定感の成長を感じた。幼稚園において、「幼児に生きる力の基礎を育む」ことが求められている。5領域を基に「育ち」の姿10項目が示された。全職員がまず、子ども一人一人の内面理解に努め、発達段階を考慮し今、「何が大切なのか」「今、何の力を育てようとしているのか」を日々の保育の中で、考えているからこそだと思う。保護者のアンケートから子どもたちが「幼稚園に来ることを喜んでいる」「子どもをこの幼稚園に通わせて良かった」との声を聞き、子どもたちの姿から大きな成果を得られたのだと感じた。
- ・本年度も新型コロナ感染拡大予防のために、行事の内容や参加の仕方等も、常に子供たちの気持ちを考え配慮し工夫されている。園の施設面においても、子どもたちが安心して生活できるよう配慮や工夫をされている。

